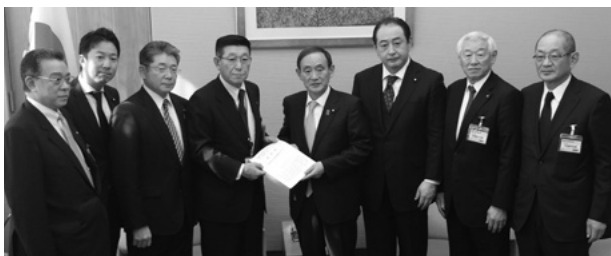


2月20日(月)、佐竹敬久秋田県知事や各市町村の代表者ならびに本会藤澤正義会長をはじめ各経済団体の代表者が菅義偉内閣官房長官、麻生太郎財務大臣、石井啓一国土交通大臣をそれぞれ訪れ、県民の総意として県内高速道路の早期全線開通に向けた要望を行いました。

要望では、広域防災ネットワークの構築や災害時における緊急輸送道路の確保、企業立地の促進、物流効率の改善、広域周遊観光による交流人口の拡大など、高速道路ネットワークは地域経済の好循環や生産性の向上にはなくてはならないものであり、全線がつながってこそ真価が発揮されるため、高速道路ネットワークによるストック効果を早期に発揮させるべく、県内高速道路の一日も早い全線開通を働きかけました。

本会では、今後とも「秋田日本海沿岸東北自動車道早期建設期成同盟会」の一員として、県内高速道路の整備促進に向け取り組んでまいります。



〔要望の様子(右から1人目が藤澤会長)〕

要望事項 (高速道路の早期全線開通に向けて)

- 1 平成29年度においても、高速道路の整備に必要な予算を確保し、高速道路ネットワークの一日も早い完成を図ること
- 2 日本海沿岸東北自動車道及び東北中央自動車道の一日も早い全線開通に向けた建設促進を図るため、次の事項に配慮すること
 - ① 東北中央自動車道「及位～上院内」間について、早期の事業化を図ること
 - ② 日本海沿岸東北自動車道の「遊佐象潟道路」、「二ツ井今泉道路」、「鷹巣大館道路」及び「二ツ井白神IC～小繋IC」間、東北中央自動車道の「横堀道路」の建設促進と早期完成を図ること
また、「二ツ井今泉道路」については、早期に開通時期を示すこと
- 3 県内高速道路における暫定二車線区間について、次の事項に配慮すること
 - ① 秋田自動車道「大曲IC～北上JCT」間について、4車線化の整備に向けて取り組むこと
 - ② 暫定二車線区間における正面衝突事故を防止するため、ワイヤロープ等による対策を早期に実施すること

オール秋田による「秋田いぶりがっこ」のブランド力向上を目指す

～秋田県いぶりがっこ振興協議会 設立総会を開催～

本県の伝統的な漬物である「いぶりがっこ」は、需要が拡大傾向にある一方で、県外業者による生産量も近年拡大しており、このままでは秋田の漬物としての認識がない消費者が増えていくほか、低品質ないぶりがっこの普及によるイメージの悪化が懸念されています。

そこで、本会では今年度、県内のいぶりがっこ製造業者や行政関係者を対象に「組合連携コーディネート事業」を実施し、いぶりがっこのブランド化に向けた「地理的表示保護制度(GI)」の登録申請における商品名・使用原料をはじめとする基準の内容を検討したほか、オール秋田による「秋田いぶりがっこ」のブランド力向上を目指す連携組織の設立についても協議を重ねてきました。

その結果、連携組織の設立について関係者による合意形成がなされ、1月23日(月)、秋田市の「ホテルメトロポリタン秋田」において秋田県いぶりがっこ振興協議会の設立総会が開催され、設立発起人である秋田いぶりがっこ協同組合(鈴木辰美理事長)、秋田県漬物協同組合(木村養市理事長)、横手市いぶりがっこ活性化協議会(高橋一郎会長)をはじめ、賛助会員である秋田県、株式会社秋田銀行より関係者17名が出席しました。

総会では、本会よりこれまでの取組経緯について説明を行った後、設立発起人よりそれぞれ挨拶が行われました。

続いて、議長に鈴木理事長を選出し議案の審議に入り、規約(案)ならびに平成28年度・29年度の事業計画がいずれも満場一致で承認・可決されたほか、草薨作博秋田県観光文化スポーツ部長の会長就任を含む役員(案)が満場一致で可決されました。

今後は、本会が当協議会の事務局を務め、秋田県をはじめとする行政機関のバックアップを得ながら、品質・技術の向上に向けた研修会や販路拡大に向けた共同PR・販促活動等の実施により、県内のいぶりがっこ製造業者等の振興・発展を目指してまいります。



〔左から当協議会高橋一郎副会長・木村吉伸副会長
草薨作博会長・鈴木辰美副会長〕